

あらすじ

痴漢囹捜査官・鈴峰杏花は
これまでいくつもの痴漢を検挙してきた
凄腕の捜査官だった

彼女は捜査官としてのスキルや美貌にくわえて
不感症であるという
痴漢囹捜査官として最大の利点をもっていた



しかし…
とある囹捜査の途中で
怪しい男に遭遇する
その男の不思議な力によって
不感症だったはずの鈴峰杏花の体は
眠っていた性的な快感を
呼び起こされて…



今まで感じたことのない快楽の衝撃に戸惑わされ
何度もイカされ

痴漢囹捜査の最中に挿入されて
何も考えられなくなるほど
頭を真っ白にされながら中出しされるとい
う最悪な失態を犯してしまう

それはこれまで完璧に任務を遂行してきた
鈴峰杏花にとって

人生最大の屈辱だった

それからというもの
鈴峰杏花のカラダはすっかりと
変わってしまった
不感症だったカラダは
日を追うごとに敏感になっていった



ひとたび痴漢にカラダを触られると
カラダは熱く火照って力が入らなくなり
なすすべもなく犯される
そんな屈辱的な日々が1年近く続いた



ただ…
どんなに気持ちよくさせられても
一度もイカされなかったこと
それだけが痴漢団捜査官としての
最後のプライドだった



しかし1年後
バスの中で
ついにあの男に遭遇して

これまで1年間
痴漢され続けて
カラダに蓄積されていた
快感が一気に爆発して

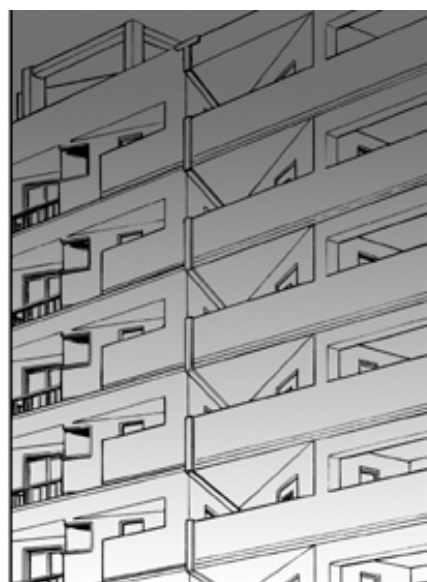


ついに気持ちいいことを
認めさせながら
イカされてしまった...

痴漢 囃捜査官キョウカ

第5話

不感症からの反動で
イキやすくなってしまった
カラダ





海岸沿いのバスに
出没する
胸ばかりを触ってくる
痴漢の情報を
受け取った私は

さっそく
囧としてその場所に
向かった



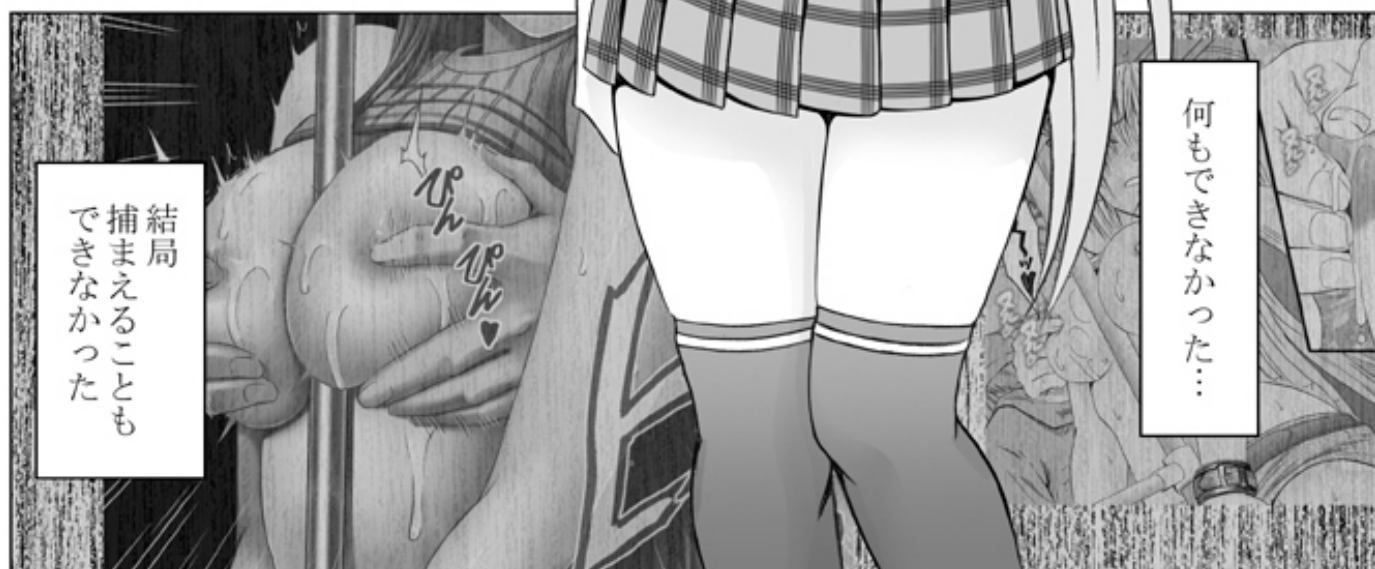
あの時は
鉄柱に手を拘束されて

何時間も胸だけを
しつこく触られて



胸ばかり
触ってくる痴漢…

1年前のあの痴漢を
思い出す…



何もできなかった…

結局
捕まえることも
できなかった



いきなり挿入してきた
中年男…



〇〇線の
痴漢グループ…



この1年間…

いろんな奴らに
いいように弄ばれて…



私を監禁した
痴女の集団



プールで遭遇した
強引な輩たち…



このままじゃ
終われない

全員
忘れてはいない！

絶対に
許したりはしない！

必ず一人残らず
捕まえてやる…！







胸をもまれて
わずか数秒

本当に一瞬で
私のカラダは
ダメな状態に
なってしまうて…



長年の
不感症を偽装してきた
反動だった

私のカラダは
快感に対して

まるで抵抗がなくなって
しまっていた



気づいたら
座席に手を拘束
されていて…

もう
そこからは
完全に

痴漢たちの
ペースになって
しまつて



……!!

これじゃまた
何もできない!

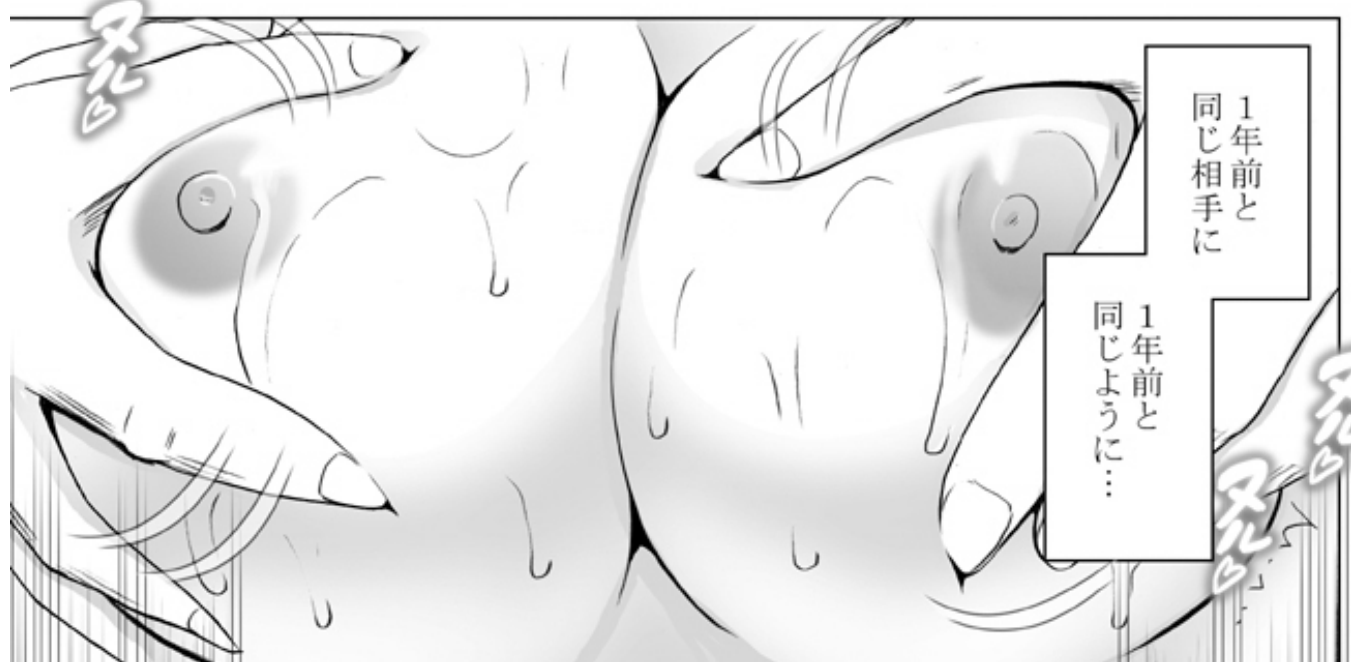
しまった…!!



何で…私は
いつも…!!
こうなつて
しまつた…!!

1年前
〇〇のバスで
遭遇した美女だよな

アンタのこと
覚えてるよ



ただ
ひとつ違って
いたこと

それは

1年前は
どんなに感じて
もイクことは
無かったけど

今は…



